

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー
2016年度事業計画

I 事業計画基本方針

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーは、2016年度において、以下の基本方針を掲げ、事業を推進する。

1. 財団事業の展開

定款に定められた当財団の目的に添って、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた対話を通し、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を一層活発に展開する。

2. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 東・西活動センター

- ① 現行のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。
- ② 参加者同士の対話中心の宿泊プログラムを拡充する。
- ③ アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組む。
- ④ 得られた成果を機関紙による広報を超え、広く社会に発信する。基幹プログラムの成果は出版物として発行などし、知の蓄積を行う。
- ⑤ キリスト教精神に基づく未だ認知の不十分な幅広い課題をプログラム化し、もってキリスト教系メディア、一般メディアの関心を高め、啓発活動を活発化する。

(2) 関西セミナーハウス

- ① 当財団の事業展開の拠点として、公益目的事業でのさらなる活用をはかる。また、当財団の目的達成に資する諸団体が行う公益目的事業を支援するため、宿泊研修施設を諸団体、教育機関・学会・研究会活動等の広い利用に供する。
- ② リピート利用者の丁寧なフォローおよび新規利用者の開拓などに取り組み、利用率の向上及び収支の改善を図る。

(3) 広報活動

フォーラム事業、研修・セミナー・体験交流事業等の内容並びに各年度事業計画・予算及び事業報告・決算を機関紙「はなしあい」において定期的に報告する。同時に、東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページ等によって積極的な情報発信を継続する。

2) 収益事業

公益目的利用外の一般利用者、企業等へ宿泊研修施設関西セミナーハウスの貸出しを行い、その収益の一部を公益活動に資する。

3. 運営推進体制の安定化

- 1) 公益目的事業の運営推進に当たって、継続的な事業に関しては明確な

方向性と予算計画を持ち、プログラム毎の収支の整合化を原則とする。新規プログラムについても、必要財源を確保し、活動の安定的展開を目指す。

2) 財団事業の適正かつ円滑な運営を図るため、諸規程の整備を進める。

4. 財政の健全化

1) 理事会に承認された予算を守る。

2) 収入不足を補うための運用基金の取り崩しは、原則として行わない。

3) 運用基金の運用は、「運用基金運用規程」および「運用基金運用細則」に則り、安全で流動性のある財産運用を行う。

5. 賛助会員、寄附金の拡充

公益事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念を周知し、アカデミー運動を支えようとする賛助会員、寄附金の拡充を図る。

II 関東活動センター2016年度事業計画

2015年度は、関東活動センター事務所や集会室のある日本キリスト教会館の耐震補強・改修工事が行われた。そのため、関東活動センターの各事業は大きな制約を受けざるを得なかった。しかし2016年3月より、キリスト教会館が全面的に改装されて新しく出発するので、日本クリスチャン・アカデミーの理念に基づき、以下のような諸プログラムを計画する。

1. 関東フォーラム「今日的課題」Ⅰとして、昨年に引き続き「セミナー自死に遭遇した人への慰めとは」を実施する。従来タブーとされがちであった自死の問題を取り上げ、教会と社会における具体的な取り組みの可能性を探るプログラムである。

2. 関東フォーラム「今日的課題」Ⅱ「古典で読む20世紀」は、昨年に引き続き、現在ではほとんど読まれなくなった先哲の様々な古典的著作を読み直し、21世紀の現在の時点でその意義を再確認することを目的としている。

3. 関東フォーラム「宗教対話」Ⅰとして、新企画「プロット神父と共に『星の王子さま』を読む」プログラムを実施する。今では古典とされるサンテグジュペリの『星の王子さま』を、長年多角的に研究してきたプロット神父と共に読みながら、「心の居場所」を失った現代の教育の問題に鋭く切り込む。

4. 関東フォーラム「宗教対話」Ⅱ「これでいいのか日本のキリスト教」は、キリスト教会の枠を越えて様々な分野で活動している若き活動家たちを招き、現代社会への問題提起を聞き、共に考える企画である。

5. 関東フォーラム「宗教対話Ⅲ」は、昨年に引き続き「礼拝のためのヴォイス・トレーニング」を実施する。聖書朗読や司式、説教などの発声・発語訓練を行う。

6. 聖書を読むシリーズでは、入門的な聖書講座と、フェミニズムの立場からの聖書の読み直し、あるいは今日的視点からの聖書の読み方を探ることを目的としている。

7. 各神学校の枠を超えた神学生たちの交流を目的とした「神学生交流プロ

グラム」については、2016年度は各神学校の賛助を得て、第8回プログラムを実施する。

関東フォーラム 今日的課題 I	全5回	『自死』に遭遇した人への 慰めとは 賀来周一（キリスト教カウ ンセリングセンター相談所 長）	第1回6月6日（月） 第2回7月4日（月） 第3回8月1日（月） 第4回9月5日（月） 第5回10月3日（月）
関東フォーラム 今日的課題 II	全4回	古典で読む20世紀 武田利邦（農村伝道神学校 講師）	第1回5月13日（金） 第2回7月8日（金） 第3回9月9日（金） 第4回11月11日（金）
関東フォーラム宗 教対話 I	全5回	プロット神父と『星の王子 さま』を読む	第1回5月 第2回6月 第3回7月 第4回9月 第5回10月
関東フォーラム 宗教対話 II	全3回	これでいいのか日本の「キ リスト教」向谷地宣明（べ てぶくろ代表）、長尾有起 （北支区宣教師）、和田芳子 （児童相談所所長）	第1回9月10日（土） 第2回11月12日（土） 第3回1月14日（土）
関東フォーラム 宗教対話 III	全6回	「礼拝のためのヴォイス・ トレーニング」講師・友野 富美子	第1回6月5日（月） 第2回6月12日（月） 第3回6月19日（月） 第4回6月26日（月） 第5回7月4日（月） 第6回7月10日（月）
研修・セミナー・体験交流事業			
聖書を読む講座 I	全9回	『いのちの糧の分かち合 い』を著者と共に読む 山口里子（日本フェミニス ト神学・宣教センター共同 ディレクター）	第1回4月12日（火） 第2回5月10日（火） 第3回6月14日（火） 第4回7月12日（火） 第5回9月13日（火） 第6回10月11日（火） 第7回11月8日（火） 第8回12月13日（火） 第9回1月10日（火）
聖書を読む講座 II	全5回	「上林牧師と旧約聖書を読 む」 講師・上林順一郎	第1回6月10日（金） 第2回7月8日（金） 第3回9月9日（金）

			第9回10月14日(金) 第5回11月11日(金)
神学生交流 プログラム		第8回神学生交流プログラム 校長 関田寛雄(教団 巡回教師)、講師 石田学 (日本ナザレン神学校長)	2017年3月14日～ 16日

Ⅲ 関西セミナーハウス活動センター事業計画

日本社会が直面している様々な困難な問題について、キリスト教精神に基づき話し合いを深め、問題の根源的解決の道を探る。

1. 修学院フォーラム「社会」において、宗教と戦争を継続的テーマとし、戦争の根源的原因を考える。継続的テーマとしてきた「エネルギーを考える」の第5回で、福島原発事故を完全に収束させるには何が課題かを、被災地の現場と技術的視点から考える。SEALDsのような民意を政治に反映させる新しい方法について考える。佐藤 優氏と共に、政治と宗教について引き続いて考える。
2. 修学院フォーラム「福祉」において、深刻化しつつある子供の貧困の現状を知り、何ができるかを考える。いのちの終わりを迎える備えについても考える。
3. 修学院フォーラム「いのち」において、介護百人一首を通し、いのちを見つめる。ジャズピアニストとクラシックピアニストの演奏と語りを通し、いのちの輝きを味わう。
4. 開発教育セミナーにおいては、人権・平和・環境などの地球的課題を参加型学習で学び、私たちの社会のありようを考える。
5. これらに加え、京都のキリシタンの跡を訪ねる会、お茶と俳句を楽しみつつ、聖書の言葉を味わう会、もみじの美しい季節に関西セミナーハウスの景観を背景に、お茶とお箏、フルート演奏、美術を楽しむ、もみじまつりを催す。

修学院フォーラム 社会	第1回	宗教と戦争を考える：1 旧約聖書における戦争の問題 —聖戦と聖絶(ヘレム) 勝村弘也(神戸松蔭女子学院大学 名誉教授)	10月8日(土)
	第2回	宗教と戦争を考える：2 新約聖書における戦争の問題 浅野淳博(関西学院大学神学部)	11月12日(土)
	第3回	民意を政治に反映させる新しい 試み：SEALDsとは何か 講師交渉中	12月3日(土) (仮)

	第4回	エネルギーを考える：第5回 福島原発事故収束の課題は何か 被災地の現場から 講師交渉中 技術的視点から 講師交渉中	2017年1月8日（日）～9日（月、祝）
	第5回	政治と宗教（仮） 佐藤優（作家・元外務省主任分析官）	2017年1月28日（土）
修学院フォーラム 福祉	第1回	子どもの貧困を考える 講師交渉中（大阪） 京都YWCAと共催	6月11日（土） 会場：京都YWCA
	第2回	いのちの終わりへの備えを考える 講師交渉中（大阪） 京都YWCAと共催	2月25日（土）（仮） 会場：京都YWCA
修学院フォーラム いのち	第1回	いのちを見つめて —介護百人一首— 安森敏隆（同志社女子大名誉教授）	4月23日（土）
	第2回	花と音楽のコラボレーション —いのちをめぐるメッセージ 竹中 真（ピアニスト）	5月21日（土）
	第3回	いのちの響き（仮） 演奏とメッセージ 菅野万利子（ピアニスト）	3月5日（日）（仮）
研修・セミナー・体験交流事業			
開発教育セミナー	第1回	開発教育入門セミナー（協力プログラム）主催：JICA 関西他	6月26日（日）
	第2回	地球市民を育むアクティブ・ラーニング 橋本渉（東京大学中等教育学校）	7月9日（土）～10日（日）
	第3回	政治って何なんだ！？～日本の戦後とこれから 白井聡（京都精華大学人文学部）	9月10日（土）～11日（日）
	第4回	ヘイトスピーチ・わたし・社会安田浩一	10月15日（土）～16日（日）

	第5回	支配されるタネ～食料主権と持続可能な社会 西川芳昭（龍谷大学経済学部）	11月5日（土）～6日（日）
	第6回	イスラームから世界を見る～中東とヨーロッパの今（仮） 講師交渉中	12月10日（土）～11日（日）
お茶のこころと宗教のこころ		初夏の茶室とバスで巡るフィールドツアー〈2〉「京都のキリシタン史跡を訪ねて〈西ノ京エリア〉」 杉野榮（日本バプテスト連盟京都洛西教会牧師）	6月18日（土）
	全10回	お茶と俳句と聖書（仮） 榎本栄次（関西セミナーハウス活動センター所長）	6月以降、毎月1回
もみじまつり		絵画展 検討中 演奏 園城三花（フルート奏者）	11月23日（水、祝）

IV 関西セミナーハウス事業計画

2016年度の関西セミナーハウス事業計画は、以下の通りである。

1. 運営方針

1) 公益目的事業の拡大

関西セミナーハウス主催の文化的プログラムを継続するとともに関西セミナーハウス活動センターや他の教育機関・学会・研究会、諸団体と連携し、その文化、教育、社会貢献活動に参画する。

2) 収益事業の展開

公益目的以外の一般利用者、企業等への宿泊及び研修施設の貸出を積極的に推進する。

3) 公益活動への貢献

2015年度に引き続き、公益財団法人の活動を支えるために一定額を設定し、財政的な貢献を担う。

4) 有形、無形財産の活用

茶室、能舞台、日本庭園など本施設が持つ特色を生かしつつ、利用者に満足をもたらす運営に努力する。

5) 広報活動の強化

ホームページ、メールマガジン、フェイスブック、DMなどを通じて、本施設を幅広く、継続的に広報する。

6) 利用者拡大の努力

広報活動のほか、人的活動を展開し、長年、本施設が支えられているコア利用者（大学、企業、キリスト教諸団体等）への丁寧なフォロー、新たな利用者の獲得に努力する。

7) 柔軟な料金体系の設定

適時、季節と繁忙を考慮した柔軟な料金体系を設定する。

8) 健全な収支の確保

利用者の拡大、諸費用の効率化などに取り組み、収支のバランスを整え、事業の継続性を確かなものとする。

9) 施設の更新

資金収支を改善することにより、施設改修に充てるための資金を可能な限り積立て、老朽化している施設の更新を行う。

2. 主な数値目標

1) 収入計画 (P&L ベース)

売上高 1 億 1,982 万円

営業利益 0 円

3) 設備投資

年間総額 1,200 万円

主な案件 電話交換設備避雷器設置

1 階男子トイレ改修

3 階客室改装

等

4) 宿泊者目標

上半期 5,200 名 (前年比 98.8%)

下半期 4,500 名 (前年比 106.2%)

年間 9,700 名 (前年比 102.1%)

5) 年度期首要員 14 名